

2008(平成20)年度事業報告(2008年4月1日~2009年3月31日)

「国連・障害者権利条約」が、わが国を始め多くの国からの署名を得て、昨年5月3日に発効しました。いよいよ、障害のある人にも当たり前の権利と自由が認められ、社会の一員として尊厳ある生活を求めることができる時代となりました。しかしながら、国内の実状を見てみますと、「障害者自立支援法」や「障害者基本法」の見直し、「特別支援教育」の導入など、私たちの生活を取りまく状況は決して安定できるものではありません。医療・福祉・保健・労働・教育の各分野において、障害間・地域間の格差が問題視され、まだまだ根本的な法制度の整備が急務と言わざるを得ません。当協会の相談事業でも、これらの大きく変動する社会のしくみについての戸惑いの声が、多く寄せられました。そこで協会でも、加盟・連携する多くの団体との情報交換を行いつつ、「てんかん」がさらに法制度の谷間に置いて行かれないよう、適宜最新情報の発信と意見表明を行ってきました。その中でも、昨年4月に社会問題となった「生活保護制度における通院移送費の制限問題」に対しては、協会はいち早く要望行動にうごきました。また本年1月に、岐阜県内で生じた障害者手帳の取得制限問題は、協会が事態の緊急性を重要視し迅速な対応を行い、これにより厚生労働省が直ちに全国の地方自治体に通達をするという異例の早さの対応が実現し、各地での混乱を回避させる大きな役割を果たしました。

こういった地道な活動は、協会が毎年行ってきた請願活動で、昨年6月の通常国会において衆参両院にて5項目全てが採択されるといった快挙を成し遂げることができました。「継続は力なり」です。今後は、これらの採択された項目をいかに具体的な制度・サービスとして実現していくかが協会の次の目標であり、一步一步着実に進めているところです。

また、1973年に東京の二つの病院の待合室で誕生した「てんかん運動」が、昨年35周年を迎えました。これを記念して、東京で理事会が主催する全国大会を開催しました。関東ブロック各県支部の尽力と、多くの関係団体の協力を得て、当日は黒柳徹子さんの講演や35年間を振り返りつつこれからの運動のあり方に夢を語った全体討論など、てんかん運動35周年の記念大会(東京大会)として、力強い大きな一步を参加者の皆さんと共有できた全国大会となりました。

一方で、100年ぶりとも言われる民法改正の中で、昨年11月30日に公益法人制度(社団法人・財団法人)が廃止されました。翌12月1日からは、協会も「特例民法法人」となり2013年11月30日までに新しい制度の中に移行をしていかなければなりません。これに合わせて、協会内部に設置したさまざまな委員会活動も積極的に行い、協会の組織・運動についての抜本的な見直しに向けて、準備を始めました。まず、組織活性化委員会および当事者組織委員会を中心に、全国支部活動者会議(リーダーセミナー)での意見交換を実施し、会員ニーズを把握するための調査事業にも着手しました。また、創薬ボランティア委員会を中心としたさまざまな情報収集および要望活動により、前年度までの「ガバペン」・「トピナ」に引き続き、3年連続となる新薬「ラミクタール」の発売という大きな成果を得ました。これらの継続的な取り組みは、年々良い成果を上げています。さらに、新境地を迎えた独立行政法人福祉医療機構の助成事業「てんかんのある人の自立生活を支えるための事業」では、地域の社会資源を活用することを主眼におき、各地での相談事業が充実するための「相談Q&A」マニュアルを作成しました。このマニュアルを活かし、新年度の事業では、具体的に相談の専門家やピアサポーターの養成事業に取り組む予定です。

最後に、協会の活動を社会(一般市民)にもっとよく知ってもらうために、さまざまな場面でのPR活動も行いました。一昨年にリニューアルをした啓発用のリーフレット、ポスター、のぼり旗を活用し、全国で「市民公開講座」などを開催し、マスコミなどを活用して広く当事者や家族の声を伝えることもできました。これらの活動が、協会の会員獲得や運動の支援につながることを信じて止みません。

以下、昨年度内に計画をした事業の内、次の事業を実施しましたので報告いたします。

※事業名の★印は今期新規事業

社会啓発事業

月刊「波」の発行

※JKA競輪補助事業(全国財団経由)

- 1). 毎月7,500部発行(通巻445号～457号)／B5版・本文36頁
- 2). チラシの作成
- 3). 編集委員会の開催(毎月)／委員12名

支部機関誌紙の発行・交流

- 1). 各支部の特徴を生かした誌面作りで、継続をして発行した。

小冊子・ビデオの作成・広報

- 1). IE NEWS日本語版(季刊)発行／B5版・本文20頁、7,400部 ※大日本住友製薬協賛事業
- 2). 入門シリーズ②「てんかん、こうしてなおそう～治療の原則」作成 ※JKA競輪補助事業(同上)
久保田英幹著、B5版・本文110頁、4,000部作成・配付
- 3). 抗てんかん薬ポケットブックの発行(*2007年度事業の継続)
三島信行監修、ポケット版・88頁、10,000部(内、7,000部は全国の教育・福祉機関へ贈呈)
- 4). 災害対応・被災地支援等ガイドライン(仮称)の発行★ ※マニュアル生命・中央共同募金会助成事業
(*2009年度事業へ繰越)
- 5). 既刊書籍・小冊子・ビデオ追加作成
- 6). 既刊ビデオのインターネット配信

各種パンフレット等の活用・作成

- 1). 協会活動広報PRビデオの活用
- 2). コミュニケーション・ツール「患者さんの生活の質を高めるために」(付録／てんかん治療に関する質問票)書を作成し全国へ配布(A5版・本文8頁+質問票2頁、4,000部)★
※グラクソ・スミスクライン協賛事業
- 3). 「緊急カード」増刷分の周知・配付(10,000部) ※日本てんかん学会協力事業
- 4). てんかんと正しく知ってもらうための各種啓発資材の作成・配布

てんかん関連書籍の頒布

- 1). 支部活動と連携をした書籍紹介・頒布(奈良県支部、鳥取県支部、など)
- 2). 関連優良図書を受託販売
- 3). 出版社と連携をした新刊本の発刊
 - ①. 保健同人社発行本の監修と広報・買取／キーワードから読み解く「やさしいてんかんの本」(山内俊雄著、A5版・200頁)★
 - ②. クリエイツかもがわ発行本の増刷と広報・買取／てんかん入門シリーズ①「てんかん発作-こうすれば大丈夫 [発作と介助]」(川崎淳著、B5版・本文84頁、1,500部購入)
- 4). 関係団体事業や関連学会会場での協会ブースの設営と出張販売

「第31回てんかん基礎講座」の開催 ◎

- 1). 基礎講座企画委員会の実施
1. 大阪会場
 - 1). 日時：7月23日(水)～24日(木)
 - 2). 会場：チサンホテル新大阪
 - 3). 参加者数：333名
2. 東京会場
 - 1). 日時：7月31日(木)～8月1日(金)
 - 2). 会場：大田区産業プラザPiO
 - 3). 参加者数：289名
3. テーマと講師

- 1). てんかん発作の種類と介助／川崎淳(川崎医院)
 - 2). 高齢者のでんかん／赤松直樹(産業医科大学)
 - 3). 突然死《SUDEP:Sudden Unexpested Death in Epilepsy》／久保田英幹(静岡てんかん・神経医療センター／協会副会長)
 - 4). てんかんと運転免許／井上有史(静岡てんかん・神経医療センター)
 - 5). 遺伝子はどこまで解明したか／廣瀬伸一(福岡大学)
 - 6). てんかんを手術で治す／堀智勝(東京女子医科大学)
4. その他のプログラム
- 1). 本人からの訴え
 - 2). 参加者交流会
 - 3). 質疑応答

支部におけるさまざまな講座の開催

1. てんかんを知る・入門シリーズ①発刊記念講演会の開催 ★
 - 1). 全国6支部において6回開催
2. その他毎月「波」誌上にて告知・報告

「てんかんを正しく理解する月間(てんかん月間2008)」の実施 ◎

- 1). 期間：11月1日～30日
- 2). 新パンフレット(カラー・ハガキ大・4頁、10,000枚)の増刷・配布
- 3). 全国大会における中央集会(記念式典)の開催
 - ①開催日：11月29日(土)13時00分～13時55分
 - ②開催地：日本教育会館「一ツ橋ホール」
 - ③参加者総数：650名
- 4). 木村太郎記念賞、功労賞の贈呈
 - ①木村太郎記念賞：大谷藤朗(国際医療福祉大学名誉総長、元厚生省医務局長／神奈川)
 - ②功労賞：a. 三國雅彦(群馬県)、b. 今里節子(千葉県)、c. 湯原和子(東京都)、d. 粟屋豊(東京都)、e. 全国心身障害児福祉財団(東京都)
- 5). 第42回日本てんかん学会記念市民公開講座の共催
 - ①開催日：10月19日(日)13時00分～17時00分
 - ②開催地：東京女子医科大学「弥生記念講堂」
 - ③参加者総数：200名
 - ④プログラム内容：
 - 第1部：「てんかん最前線」(講演と質疑応答)
 - 第2部：「てんかん患者さんをお風呂場での事故から守ろう」(シンポジウム)
 - ⑤主 催：第42回日本てんかん学会
 - ⑥協賛：グラボ・ミスライン、ユーシーピー・ジャパン、協力：和光堂、東京女子医科大学
- 6). 平成20年度第31回神経研シンポジウム「てんかんを理解し克服するための てんかん研究・治療最前線」開催への協力 ★
 - ①開催日：10月24日(金)13時00分～17時00分
 - ②開催地：新宿明治安田生命ホール
 - ③参加者総数：200名
 - ④プログラム内容：講演(7テーマ)と質疑応答
 - ⑤主 催：東京都神経科学総合研究所
- 7). 街頭活動の実施
新のぼり旗の活用、署名活動、などを全国各地で展開

マスコミ等との連携

- 1). 正しい知識の普及、当事者とその家族による理解促進
 - ①企業内研修への当事者とその家族の派遣(体験発表)

2). マスメディアを対象とした事業の実施

①新規てんかん治療薬記者発表会「てんかん治療の最前線」での講演 ★

- a. 日時：12月3日(水) 15:30～17:00、b. 会場：トップオブアスクエ7宴、c. 参加者：50名、d. 講演内容：てんかん患者の実態そして新薬への期待～患者・家族の声を代表して～、e. 主催：グラクソ・スミスクライン

3). 記事、放送内容への働きかけと情報提供

①交通事故、プール事故報道などへの情報提供・声明発表

迅速で適切な情報の提供

1. 「JEA通信」の発行

- 1). 毎月発行
2). FAX通信も随時発行
3). 支部メーリングリスト jeamlでも随時情報発信

2. ホームページ(インターネット)の充実 ★ ※ファイザー協賛事業

- 1). Home Page <http://www.jea-net.jp/> の更新/トップページへの年間アクセス数147,250HIT
2). オンラインでの入会申込みが増加(入会者95名/入会者全体の24%)

療育指導事業

てんかんに関する相談および支援

- 1). 電話相談・来所相談(本部では毎週3回/年間電話655件・面接13件)
2). 支部・ブロックにおける相談活動の充実
3). ピアカウンセラー、ピアサポーターの育成
4). 相談支援専門機関・団体との連携を模索
5). 日本てんかん学会との連携の準備を推進
6). 「ぜんちのあんしん保険」の推奨★

地域における福祉保健・医療の向上を目的とした活動

- 1). てんかんを正しく理解する取り組み
2). 子育て“いきいき”プロジェクトの実施
「てんかんのある人々とその家族の生活ニーズの全国調査」事業と連携
3). 権利擁護活動の充実/ボランティアの育成、イエローリボンバッチの普及活動
4). 各種社会福祉事業の立ち上げ・運営への取り組み(支部活動を中心に)
5). 地域における療育活動を推進し活動のネットワーク化の推進

集団・個別療育指導活動

※国庫補助事業(全国財団経由)

- 1). キャンプの実施(18支部で全19回実施した)
2). 水泳教室やレクリエーション活動を各支部で行った

当事者グループ等の育成、自立・就労・社会参加への取り組み

- 1). 当事者組織委員会の実施
2). 各種交流集会の開催(全国支部活動者会議、全国大会、など)
3). メーリングリストによる情報・意見交換

見学・研修(当事者・家族・専門職・学生、など)への対応

- 1). 協会活動の紹介、参考文献・各種資料等の閲覧
2). てんかんに関する研修講師の派遣・紹介
3). 各種研修会を本部・支部において実施

- 4). ボランティア（研究者、専門職、マスコミ、一般市民など）による協力体制の拡充
- 5). 障害者や支援者の海外派遣事業への協力
- 6). 当事者の渡航、留学、来日などに対する援助

支部活動の充実・支援

- 1). 支部還付金の交付
- 2). キャンプ助成金の交付
- 3). 全国支部活動者会議およびブロック会議等の開催

「てんかんのある人の自立生活を支えるための事業-地域の社会資源活用-」の実施

※独立行政法人 福祉医療機構助成事業

- 1). 企画委員会の開催（5回）
- 2). マニュアル「てんかん相談Q&A」リファイル/加除式（本文：A5版・98頁、1,700部）、事業報告書（B5版・本文2頁、1,500部）の作成・全国配布

調査研究事業

創薬ボランティア活動の充実と強化

- 1). 創薬ボランティア委員会の実施
- 2). 製薬企業との情報交換を行い、「波」誌上等で最新情報を提供した
- 3). 関連学会と連携して、抗てんかん薬・開発治験促進の働きかけを行った
- 4). 新薬承認の迅速化、稀少疾病用薬品の指定、未承認薬の承認前使用、などの要望活動
 - ①レベチラセタム（ユーシービージャパン）、②イノベロン（エーザイ）、③フォスフェニトイン（ノーベルファーマ）、④スチリピントール（明治薬業）、他
 こういった活動が実を結び、前年度までの「ガバペン」、「トピナ」に引き続き、昨年12月に「ラミクタール」が新薬として発売された。

各種研修会の開催

- 1). 本部・支部において主催、共催、後援、協賛、協力のさまざまな形で実施した
- 2). 内容は、相談活動、社会福祉事業の立ち上げ、支部運営など、さまざまであった

各種調査・研究事業の実施と協力

- 1). 内閣府：障害者施策総合調査（教育・育成）
- 2). 高齢・障害者雇用支援機構：障害・疾病のある人の自立と就労ニーズに応える職場と地域の取組状況に関する調査
- 3). その他、関係機関・団体や大学関係者の調査研究に随時協力

てんかんのある人々とその家族の生活ニーズの全国調査の実施（*2007年度事業の継続）

※みずほ福祉助成財団・社会福祉助成金事業

- 1). 企画委員会（2回）と分析調査会議（1回）の開催
- 2). 調査票を作成し全国1,056件へ送付。有効回答数は458件（回収率41.2%）。
- 3). 調査データの集計・分析を行い、報告書（A4版、36頁）をとりまとめ提出

てんかん患者のquality of life(QOL)に関する患者・医師への大規模調査

- 1). 調査報告書（A4版、本文166頁、200部）の作成・配付 ※グラクソ・スミスクライン協賛事業

国際活動の実施

- 1). 国際てんかん協会（IBE）日本支部としての活動

- 2). IE NEWS日本語版の発行(再掲)
- 3). アジア近隣諸国(韓国、台湾、など)の関係機関・団体との交流・協力支援
- 4). 国際委員会の実施

情報提供機能の充実

- 1). 関連する図書・資料の整備・充実
- 2). 国内外の最新情報の確保・提供
- 3). インターネットを活用したシステムの検討を実施
- 4). インターネット委員会の実施

その他の事業

第35回全国大会(東京大会)の開催-てんかん運動発足35周年記念大会-

- 1). 日 時：11月29日(土)12時30分～30日(日)12時30分
- 2). 会 場：日本教育会館「一ツ橋ホール」、九段会館
- 3). 内 容：記念講演／黒柳徹子「私が会った世界の子どもたち」
特別討論／「てんかん運動35年の到達点とこれからめざすもの」
オープニング、開会式・記念式典、懇親・交流会、分科会、クロージング、はとバス東京観光、など
- 4). 参加者数：2日間延べ1,050名

関連法制度改正に伴う諸制度の改革・改善への取り組み

1. 施策推進・意見表明
 - 1). 基幹施設(てんかんセンター)の開設・整備の促進
 - 2). 専門医療体制の整備・充実
 - 3). 障害者自立支援法の3年後の見直し
 - 4). 国連・障害者権利条約の批准に向けた国内法の整備
 - 5). 所得保障制度・障害年金制度の見直し(診断書様式等)
 - 6). 精神障害者保健福祉手帳のサービス拡大と重複取得に関する改善要望活動
 - 7). 就業支援施策の拡充
 - 8). 学校教育施策
 - 9). 裁判員制度の導入に向けた検討
 - 10). WHO「国際生活機能分類-小児青年版(ICF-CY)」日本語版翻訳研究
 - 11). その他
2. 請願署名活動・全国要望行動の実施
 - 1). 請願署名活動の実施
 - ① 6項目に再構成した要望書で実施(署名用紙42,500枚)
 - ② 署名総数：84,533筆、募金総額：1,331,689円
 - ③ 「てんかんのある人の医療と福祉の向上を求める集会」
実施日：5月23日(月)10時～13時
会 場：衆議院第二議員会館「第4会議室」
参加者：国会議員(4名)、議員秘書(17名)、協会関係者(19名)
請願提出：紹介議員45名
 - 2). 今回、衆参両院にて採択された全項目の具体的実現に向けた要望行動を実施
 - 3). 市区町村への要望活動の全国展開に向けた準備
3. 制度見直しへの意見・対応
 - 1). 議員・議会への働きかけ
 - ① 障害者の小規模作業所を支援する議員連盟
 - ② 各政党への要望活動、等

- ③地方議員・議会
- 2). 各種委員会・研究会等の傍聴と意見提出
- ①福祉制度
- a. 社会保障審議会・障害者部会
 - b. 今後の精神保健医療福祉のあり方等に関する検討会
 - c. 障害児支援の見直しに関する検討会
 - d. 発達障害者施策検討会
- ②医療・医薬品
- a. 未承認薬使用問題検討会議
 - b. 子どもの心の診療拠点病院の整備に関する有識者会議
 - c. 重篤副作用総合対策検討会
 - d. 厚生科学審議会疾病対策部会難病対策委員会
- ③就労支援
- a. 労働政策審議会・障害者雇用分科会
 - b. 障害者の一般就労を支える人材の育成のあり方に関する研究会
 - c. 労働・雇用分野における障害者権利条約への対応の在り方に関する研究会
- 3). 「波」論説委員会の開催／機関誌「波」誌上に、毎月協会の主張をさまざまな視点から会員などに適切に伝えた。
- 4). 福祉施策検討委員会の開催／厚労省、文科省への予算関連要望書をはじめ、「生活保護制度における通院移送費制限に対する」要望書や各種法制度の見直し時に意見の提出などを行った。また、関係団体等の各種集会に参加し、関係機関に対する要望書を提出した。

組織強化・拡大に向けた取り組み

1. 委員会活動の実施
 - 1). 協会組織のあり方検討委員会
 - 2). 組織活性化委員会
 - ①子育て“いきいき”プロジェクトの実施（再掲）
2. 機関誌「波」を拡げよう運動
 - 1). 「波」を読もうチラシの作成・配布
 - 2). 「てんかん月間」における会員獲得強化運動の実施
 - 3). 病院の待合室に「波」をおいてもらおう運動の全国展開
3. 支部・ブロックの活性化
 - 1). 「第25回全国支部活動者会議」（てんかん運動リーダーセミナー）の開催
 日時：5月24日（土）13時30分～25日（日）11時45分
 会場：東陽町ビスタホテル
 内容：基調報告／福井典子「障害者運動をめぐる情勢と展望-協会がめざすもの」
 行政報告／北 富夫「福祉の分野でのてんかん施策-いまとこれから」
 丹羽 登「教育の分野でのてんかん施策-いまとこれから」
 分科会（3分割）、夕食会（懇談会）、分科会報告、総括・まとめ
 - 2). 「ブロック会議」、「ブロック大会」の開催

《ブロック会議》

①北海道ブロック会議（全道世話人会）	2月28日～3月1日	（札幌市）
②東北ブロック会議	10月4日	（宮城県）
③関東 //	9月27日～28日	（山梨県）
④中部 //	11月2日	（四日市市）
⑤近畿 //	2月1日	（大阪市）
⑥中国ブロック交流会議	12月13日	（広島市）
⑦四国ブロック会議	8月17日～18日	（愛媛県）
⑧九州 //	8月2日	（長崎市）

《ブロック大会》

- | | | |
|-------------|-----------|-------|
| ①東北ブロック大会 | 10月5日 | (宮城県) |
| ②北越地区大会 | 6月14日～15日 | (福井県) |
| ③中国ブロック地区大会 | 12月14日 | (広島市) |
| ④九州地区大会 | 8月2日～3日 | (長崎市) |
- 3). アステラス・スターライトパートナー「ピアサポーター」養成研修への参加
全国各地で開催された初級・中級研修会に、各支部からも積極的に参加した。

関係機関・団体との連携

1. 関係団体への加盟

- 1). 国際てんかん協会(IBE)
- 2). 全国心身障害児福祉財団(全国財団)
- 3). 全国社会福祉協議会・障害関係団体連絡協議会(障連協)
- 4). 全国病弱・障害児の教育推進連合会(病障連)
- 5). 日本障害者協議会(JD)
- 6). 精神保健・医療・福祉関係団体事務局懇談会

2. 関係する学会との連携

- 1). 日本てんかん学会
- 2). 日本てんかん外科学会
- 3). 日本小児神経学会
- 4). 日本精神神経学会
- 5). 日本神経学会
- 6). 日本精神科救急学会
- 7). 日本発達障害学会
- 8). その他、必要に応じて関係する学会と連携をした

3. 関係する団体等との連携

- 1). 日本障害フォーラム(JDF)
- 2). 日本障害者リハビリテーション協会
- 3). 全日本手をつなぐ育成会
- 4). 日本発達障害福祉連盟
- 5). 全国精神保健福祉社会連合会(みんなねっと)
- 6). 全国精神障害者就労支援事業所連合会(旧全国職親会)
- 7). きょうされん
- 8). ヘルスケア関連団体ワークショップ
- 9). J-PALS・患者支援団体サミット
- 10). 日本製薬工業協会
- 11). 米国研究製薬工業協会・患者団体支援プログラム
- 12). てんかん治療研究振興財団
- 13). 東京都神経科学総合研究所(東京都医学研究機構)
- 14). その他、必要に応じて関係する団体等と連携をした

4. 関係するてんかん機関病院等との連携

- 1). 国立精神・神経センター病院
- 2). 静岡てんかん・神経医療センター
- 3). 山形病院てんかんセンター
- 4). 西新潟中央病院てんかんセンター
- 5). 宇多野病院
- 6). 東京女子医科大学
- 7). その他の医療機関

5. 「競輪場を利用した地域指導者養成研修会」事業への協力 ※全国財団主催事業

- 1). いわき競輪場(福島県)、2). 平塚競輪場(神奈川県)、3). 名古屋競輪場(愛知県)、
- 4). 大津びわこ競輪場(滋賀県)、5). 高知競輪場(高知県)、6). 久留米競輪場(福岡県)

各ブロックにおいて会員が参加し他団体代表者との交流を深め、協会の活動紹介を行った。

組織・管理

各種会議の開催

1). 総会

日時：5月25日(日) 13時～16時

会場：東陽町ビスタホテル

内容：2007年度事業報告、2007年度会計報告、2008年度事業計画、2008年度会計予算、役員選任

2). 理事会(第169回～第174回)

①5月10日～11日、②5月25日、③8月23日～24日、④11月28日、⑤1月24日～25日、⑥3月14日～15日

3). 常任理事会(理事会に併設開催)

委員会活動 (*常設の委員会のみ)

1). 「波」編集委員会

2). 「波」論説 //

3). インターネット //

4). 協会組織のあり方検討 //

5). 基礎講座企画 //

6). 国際 //

7). 創薬ボランティア //

8). 組織活性化 //

9). 当事者組織 //

10). 福祉施策検討 //

11). 教育保健 //

法人の管理

1). 法人登記

2). 会員管理

3). 協会諸規程・規則・内規等の整備

4). 職員の人事・労務管理(※事務局会議、拡大事務局会議の開催)

5). 各種表彰等の推薦事務手続き

①朝日社会福祉賞、②ヤマト福祉財団・小倉昌男賞、他

6). 厚生労働省立入検査・法人概況調査、などへの対応

7). 郵政事業会社低料第三種郵便物特別調査、などへの対応

8). 公益法人改革に伴う新体系への移行の検討(※12月1日から「特例民法法人」)

財務・会計業務

1). 一般会計および特別会計の適正処理

2). 中長期の財務計画の策定

3). 公認会計士による公益法人会計処理の指導

4). 新公益法人会計基準の完全適応化

5). 会費納入制度の新システム導入に向けた検討開始

6). 固定資産の時価適性評価

加盟団体・関係団体との連携

1). 前述の「その他の事業」で掲載した取り組みを行った。(再掲)